

## 第4学年1組 音楽科学習指導案

指導者 田久保 麻衣

### 1 題材名 「思いや意図をもって表現しよう」

教材名 鑑賞「おどるこねこ」、「ぞう」、「白鳥」、「鳥籠」、「かめ」

器楽「動物メドレー～おどるこねこ・白鳥・かめ～」

### 2 題材について

#### (1) 題材観

本題材は、学習指導要領第3学年及び第4学年（2）器楽 イ「曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図を持って演奏すること」、ウ「音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること」、エ「互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること」に焦点を当てて学習を展開する。

児童は3年生のとき、担任の先生とともに学習を進めてきた。器楽の学習においては、鍵盤ハーモニカやリコーダーの技術を高めるほか、曲の感じに合った演奏の仕方を考えながら演奏をしてきた。特にリコーダーについては、初めて触れた楽器に興味を示し、休み時間に自主的に練習したり、帰りの会などでも意欲的に取り組んだりする様子も見られた。また、教材「おかしなすきなまほうつかい」において、いろいろな楽器を試しながらどの音がいいか考える活動や、6年生を送る会においてリコーダーと鉄琴を合わせる活動も行ってきた。

本題材ではさらに楽器の種類を増やし、いろいろな楽器を合わせることのよさや、クラスで表現を工夫する面白さを感じさせる活動を通して、合奏することの楽しさを味わわせたいと考えた。

そのために、まず児童が関心をもって取り組めるように動物をモチーフにした「おどるこねこ」、「白鳥」、「かめ」の3曲を選び、授業者自らメドレーとして編曲したものを教材とした。はじめに各曲のテーマとなる旋律を選び、児童が楽器で演奏しやすいように、原曲を移調した。「おどるこねこ」は二長調からト長調に、「白鳥」は原曲のままト長調、かめは変ロ長調からト長調に移調し、短い旋律をつなぎ合わせた。次に編成をリコーダー、鍵盤ハーモニカ、木琴、鉄琴、バス木琴、バスマスター、打楽器と決め、どの子も活躍できるように曲ごとに主旋律を受け持つ楽器を変えた。最後に、低音を入れ、かざりの旋律や和音、打楽器を追加した。また、楽器が苦手な児童でも挑戦できるようにリズムを変えるなどして楽譜を簡易化し、特にリコーダーは難しい動きを省いてある。

児童が思いや意図をもって表現できるように、強弱や速さなどは記されていない楽譜を渡してある。クラスで曲想にふさわしい表現を工夫し、その楽しさを味わうようにするために、曲に合った演奏の仕方を考えさせていく。強弱や速さなどの違いによる表現方法をさまざまに試していき、4年1組だけの動物メドレーを完成させていく。

また、編成の大きい合奏は初めての経験のため、自分の楽器の役割に気付かせ音量バランスなども調整していく中で、楽器を合わせることの面白さを味わわせていきたい。

(2) 児童の実態 (男子18名、女子14名、計32名)

①題材の導入として、「ぞう」、「おどるこねこ」、「白鳥」、「鳥籠」、「かめ」の5曲の曲を聴かせ、何の動物を表しているか、ぞう、ねこ、白鳥、鳥、かめの5択で考えさせた。またそう思った理由を考えさせたところ、以下のような結果となった。

< 1 曲目…ぞう >

回答をした理由		児童の回答	
重く低い音 (音色)	13名	ぞう	32名
ドスンドスンと歩いている感じ (音色)	10名	ねこ	0名
ゆっくり (速度)	9名	白鳥	0名
のんびり歩いている感じ (速度)	1名	鳥	0名
大きく力強い (強弱)	1名	かめ	0名

イメージ：堂々と歩いている感じ、のっしのっし歩いている感じ。

< 2 曲目…おどるこねこ >

回答をした理由		児童の回答	
音色がきれい (音色)	5名	ぞう	0名
音が高い (音色)	2名	ねこ	6名
ニャーオときこえた (音色)	2名	白鳥	22名
やさしい・ゆうが (音色)	2名	鳥	4名
ちょろちょろしたりゆっくりしたりしている (速度)	1名	かめ	0名
リズムがゆうが (リズム)	1名		

イメージ：ねこが走っている感じ、白鳥が美しくとんでいるきがした、白鳥がおよいでいるみたい、など。

< 3 曲目…白鳥 >

回答をした理由		児童の回答	
きれい (音色)	2名	ぞう	0名
音が低い (音色)	2名	ねこ	2名
ゆっくり (速度)	15名	白鳥	6名
かめがゆっくり歩いている感じ (速度)	7名	鳥	1名
ゆったり進んでいく感じ (速度)	1名	かめ	23名

イメージ：白鳥が羽をパタパタさせている感じ、かめが海を泳いでいる感じ、ねこが動いているよう、など。

< 4 曲目…鳥籠 >

回答をした理由		児童の回答	
鳥の鳴き声をした (音色)	6 名	ぞう	0 名
フルートでやさしくちょんちょんしている (音色)	1 名	ねこ	1 3 名
音が高い (音色)	1 名	白鳥	0 名
テンポが速い (速度)	4 名	鳥	1 9 名
すばしっこい (速度)	3 名	かめ	0 名
リズムが細かい (リズム)	6 名		

イメージ…つばさをパタパタさせている感じ (2 名)、ねこがネズミを追いかけているよう、猫がいたずらをして逃げている、飛び立つ感じ、軽く楽しく空をとんでいる、など。

< 5 曲目…かめ >

回答をした理由		児童の回答	
音が低い (音色)	1 名	ぞう	0 名
優雅 (音色)	1 名	ねこ	9 名
輝いている感じ (音色)	1 名	白鳥	8 名
ゆっくり、のんびり (速度)	7 名	鳥	6 名
鳥がゆったりとんでいる (速度)	3 名	かめ	9 名

イメージ…かめがのしのし歩いている感じ、草の中を散歩している、白鳥が水の上でおどっている感じ、どこまでも続いている感じ、がんばっている感じ、など。

②楽器を演奏する時に気を付けていることはなんですか、という質問に対しては以下のような結果となった。

- ・タンギングを気をつける 6 人
- ・リコーダーの穴をしっかりとふさぐこと 5 人
- ・間違えないように気をつける 5 人
- ・きれいな音を出すこと 4 人
- ・強く吹きすぎないこと 3 人
- ・音を確認する 2 人
- ・相手が気持ちよく聴けるようにていねいに演奏する
- ・音の高さや吹き方
- ・楽しくする
- ・息をしっかりと出す
- ・きまりを守る
- ・曲のリズムに合わせて演奏する

< 考察 >

①の結果から、ほとんどの児童が音楽を特徴付ける要素を感じ取りながら聴いていた。特に 1 曲目に関しては全員が「ぞう」であると考え、「音が低いから」「ドシンドシンと歩いている感じがするから」などの理由を挙げていた。3 曲目の「白鳥」を聴かせたところ、速さがゆっくりだと感じている児童が多く、そこから「かめ」だと考える児童も多かった。その他にも動物の様子を思い浮

かべたり、速度や音の高低、リズム、音色、強弱などに着目したりしながら聴いていることが分かった。これらの要素について考えながら、自分の演奏に生かせるようにしていきたい。

本学級の児童の中には、器楽において得意な子と苦手な子の差が大きく、楽器が苦手だと感じるために、楽器を演奏することに苦手意識をもつ子も少なくない。そこで本題材においては音楽発表会に向けて表現意欲を高めさせ、器楽の練習を繰り返し行うことで、一人一人に自信をつけさせたい。また、演奏する際に息の使い方など演奏法に気を付けている子も多いため、その意識をさらに深め、よりよい演奏ができるようにしていきたい。そして、楽器を合わせることの楽しさや表現を工夫することの面白さに気付かせ、合奏をすることの喜びを感じさせていきたい。

### (3) 指導観

本題材では、合奏において音を合わせてひびきを楽しみながら、思いや意図をもって表現する学習を進めていく。教材は、児童が様子を思い浮かべやすそうな動物をモチーフにした曲を選択し、構成した。「おどるこねこ」、「白鳥」、「かめ」の3曲で、それぞれは異なった特徴をもっている。軽快で明るい音楽、なめらかで美しい音楽、どっしりしてテンポの遅い音楽。一人一人が各曲の曲想を感じ取りながら、動物のどんな様子を表しているのかを考え、それを表現するための手立てを考えて演奏していく。

まず導入として動物をモチーフにした曲を曲名を伏せて聴かせ、それぞれがどんな動物を表した曲なのかを考えさせる。ゲーム感覚で行い、音だけで動物の特徴や様子が分かる音楽の魅力を味わわせたい。「ぞう」、「おどるこねこ」、「白鳥」、「鳥籠」、「かめ」の5曲を聴かせ、曲が流れるごとにどの動物なのか、またなぜそう感じたのかを記入するようにする。そして、みんなの考えを出し合う時には、強弱、速度、音色や楽器の種類、音の高さなどによって音楽が特徴づけられることに気付かせていき、聴いている人に何の動物を表しているのか伝わるように演奏できるように意識付けをする。

楽譜を受け取った後は一通り譜読みをし、合奏を試みる。しかし、編成の大きい合奏に取り組むのは4年生にとって初めての経験であるため、自分の旋律を聴くことで精いっぱいになる児童が多いだろう。したがって合奏をする際には、まず曲ごとの各パートの役割にも気付かせ、音量バランスについて確認する。また、本教材では、どの児童も活躍できるように、「おどるこねこ」はリコーダー、「白鳥」は鉄琴、バス木琴、バスマスター、「かめ」は鍵盤ハーモニカと木琴にそれぞれ主旋律を受け持たせたため、曲によってパートの役割が変化する。そのため、曲ごとに自分の音、パートの音、主旋律など他のパートの音に気を付けてよく聴きながら演奏できるような活動を進めていく。

その後、それぞれの曲の表現方法をグループごとに考える。児童の実態から、「おどるこねこ」については音色に気を付けて聴いた子どもが多かったことから音色、「白鳥」は強弱、「かめ」については速度に注目しながら表現の工夫を考えていくようにする。

最後に、自分たちの録音を聴いて思っているように表現できているかクラスで確認し合いながら、自分たちで作り上げた音楽だという自覚をもたせ、発表する意欲を高めていきたい。

本時ではメドレーの3曲目である「かめ」の速さを考えさせる。「かめ」の原曲は速度の速い「天国と地獄」のパロディとしてサン・サーンスが作曲したもので、かなりゆっくりな速さとなって

いる。「動物メドレー」の「かめ」はその旋律を2回繰り返しながら終わりへと向かっていくようにした。本時では旋律の繰り返しや、動物メドレー最後の曲としての終わり方に着目し、アンサンブルグループで速さを考え、演奏する活動を進めていく。速さを変えることによって音楽の感じが変化することや、表現を工夫する面白さを感じさせ、思いや意図をもって表現する合奏の楽しさを味わわせていきたい。

### 3 題材の目標

- ・楽器の演奏の仕方を考え、曲想にふさわしい表現を工夫する。
- ・楽器ごとの役割を知り、音量バランスに気を付けて自分の音を合わせて合奏する。

### 4 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
○曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図を持って演奏する学習に進んで取り組もうとする。	○音楽を形づくっている要素を聴きとり、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現について自分の思いや意図をもっている。	○各パートの役割に気づき、互いの音を聴きながら自分の音を合わせて演奏している。 ○互いの楽器の音を聴きながら、曲想にふさわしい表現で演奏している。	○音楽を形づくっている要素を聴きとり、それらの働きが生み出す面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴に気づいて味わって聴いている。

### 5 題材の指導計画及び評価計画 (11時間扱い)

次	時	○学習内容・主な学習活動	学習活動における具体的評価規準	共通事項
1	1	○動物をモチーフにした曲を聴き、曲の表す動物の様子を想像しながら鑑賞する。	エ 音楽を形づくっている要素を聴きとり、それらの働きが生み出す面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴に気づいて味わって聴いている。	音色 強弱 速度 リズム 音の高低
2	2 3	○「動物メドレー」を聴き、曲の感じをつかむ。 ○パートごとに旋律を練習する。 ○「おどるこねこ」、「白鳥」、「かめ」の原曲を聴く。	ア 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図を持って演奏する学習に進んで取り組もうとする。	

4 5 6	○各パートの役割に気付く。 ・3曲それぞれのパートごとの役割に気付き、音量バランスについて確認する。	ウ 各パートの役割に気付き、互いの音を聴きながら自分の音を合わせて演奏している。	音の重なり 強弱
7 8 9 本 時	○3曲の楽曲について音色や強弱、速度に着目しながら自分の思いや意図を表す表現方法を工夫する。 ・グループごとの思いや意図を生かした表現方法を考え、演奏する。	イ 音楽を形づくっている要素の働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現についての思いや意図を持っている。 ウ 曲想にふさわしい表現で演奏している。	音色 速度 強弱
10	○これまでの活動を振り返り、思いや意図をより生かせる表現を考えて演奏する。 ・みんなで1つの音楽を作り上げる。	ウ 互いの楽器の音を聴きながら、曲想にふさわしい表現で演奏している。	
11	○互いの音を聴きながら、音を重ねて表現する楽しさを感じながら合奏する。	ウ 互いの楽器の音を聴きながら、曲想にふさわしい表現で演奏している。	

## 6 本時の学習（9／11）

### （1）本時の目標

○曲想にふさわしい「かめ」の速さを工夫する。

### （2）視点とのかかわり

<視点2>自分の思いや意図を表現するために

本時では、児童主体の活動ができるよう、学習を進める。自分の思いや意図を表現するための活動として、次のような手立てを考えた。

#### ①速さを考えて演奏する活動

同じ旋律が繰り返されており、また、コーダがついているという「動物メドレー」の「かめ」の曲の構成を確認し、どのように速さを変えたらよいか考えさせる。また、実際にアンサンブルをして演奏することで、速さを変えると曲の感じが変わることの面白さに気付かせていく。

#### ②ヒントカードの活用

速さの種類を記したヒントカードを活用するようにする。「速く」「遅く」「だんだん速く」「だんだん遅く」と記入されたヒントカードをグループごとに用意し、話し合いの際、速さについて考えやすくする。

③楽譜に書き込み、視覚化する

主旋律のみでフレーズごとにマークを付けた楽譜をグループごとに配布する。「かめ」の楽曲構成は[F]、[G]、[H]、[I]、[J]で（子どもの持っている楽譜はかめは[F]からとなっている）、[F]、[G]と[H]、[I]は同じ旋律の繰り返し、[J]はコーダとなっているため、構成が分かるように色分けをしておく。

また、ヒントカードをもとにマークごとに速さを決めて付箋に書き込み、メトロノームで速さを確認していくようにする。

④グループ編成

本時では話し合いがしやすいように5～6人のグループを作り、活動に取り組むようにする。このグループには主旋律を受け持つ鍵盤ハーモニカまたは木琴が必ず1人以上含まれるようにし、話し合いをした後演奏で確かめたり、演奏しながら話し合いが円滑に進められるようにする。また、楽器の苦手な子に負担がかかりすぎないように、2人主旋律を受け持つ子どもがいる場合もある。

⑤拍感を養う常時活動

4月から常時活動として拍が取れるようにピアノに合わせて歩く活動や、リズムカレンダーを取り入れている。リズムカレンダーでは代表児童が7拍分のリズムを決め、リズムボックスに合わせて全員で拍打ちを行う。速さを変化させていくことで児童の関心を高めながら拍感を養っていく。

(3) 展開

学習内容と学習活動	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">                     学習活動における                      具体の評価規準                 </div> ○教師のかかわり ☆[共通事項]	備考
1. ウォーミングアップをする。 ・ピアノに合わせて動く。 ・リズムカレンダーを行う。  2. 「動物メドレー」より「かめ」を演奏し、これまでの学習を想起する。 ・前時までの復習をした後に取り組む。  3. 本時のめあてをつかむ。	○リラックスして活動できるような雰囲気づくりをする。 ○拍や速さを捉えられるようにする。  ○楽器ごとの役割を確認する。 ○指揮をして前時までの学習を想起させる。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">かめの速さを考えよう。</div> ○「かめ」の仕組みを確認する。 ・旋律の繰り返しとコーダで構成されていること。 ・「動物メドレー」の最後の曲であること。	ピアノ         「かめ」 拡大譜

<p>4. グループに分かれ、かめの速さを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主旋律の楽譜にどんな速さにしたのか付箋に書いていく。</li> <li>・メトロノームで速さを確認し、数字を記入していく。</li> <li>・実際に演奏したり歌ったりして確かめる。</li> </ul> <p>5. グループで考えた案を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合った内容を言葉で説明する。</li> <li>・グループで決めた速さを発表する。</li> </ul> <p>6. まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の予定を確認する。</li> </ul>	<p>○めあてを確認し、活動内容を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確認したことをもとに、グループに分かれて速さを工夫するように伝える。</li> <li>・活動内容を例をあげて説明する。</li> </ul> <p>○主旋律の楽譜をグループごとに渡し、速さを考えさせる。</p> <p>○メトロノームを使い、拍を考えながら活動するよう助言をする。</p> <p>○曲の構成を振り返り、根拠をもって速さを考えられるようにする。</p> <p>○演奏が難しいグループに対しては歌で表現するように伝える。</p> <p>☆速度</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>イ 音楽を形づくっている要素の働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現についての思いや意図を持っている。</p> <p>〈楽譜の書き込み、話し合いの様子、グループの表現活動〉</p> </div> <p>○グループで話し合った速さを拡大楽譜に書き込み、視覚的にも見えるようにする。</p> <p>○自分のグループとの速さの違いに着目させ、その面白さに気付くことができるようにする。</p> <p>○曲全体の発表が難しい場合は、1フレーズを選んで演奏するよう助言する。</p> <p>○次回の予定を伝え、見通しをもたせる。</p>	<p>主旋律の楽譜 付箋 ヒントカード メトロノーム</p>
--	---	--